

荒堀さん（保育士&母）

京都市北区、民間保育園の保育士です。

子どもは4歳児、上京区の保育所に通っています。

・仕事と自身の子育ての両立をめぐる実際と葛藤について

出産後のしんどさでは時間的体力的な余裕のなさを感じています。目覚めたら自分と子どもの準備をして、登園、出勤。仕事が終わればすぐ迎えに行ってお風呂とご飯を済ませ寝かしつけ。私も育休明けの仕事のしんどさに、毎日子どもと一緒に8時頃には寝てしまい、しかも朝も起きれず、夫が出勤するときにようやく起きる、、という生活です。私と子どもが寝た後に片付け、洗濯、次の日のご飯の用意までしてくれている夫がよくやってくれていると思う反面、それだけ寝ても疲れは取れず、また起きて、仕事、迎え、という繰り返しに、生きているので精一杯！という自分自身のしんどさから中々抜けられない日々が続いています。

家事ができないと夫に悪いな、と思うし、夫の機嫌をうかがってしまったり。自分ばかり家事をしている、と言われた日には、仕事を辞めるしか無理かもしれない、、と悩みます。

職場では、子どもの体調不良で休みをもらうこともあり、そのときにはやはり申し訳なさが1番にたちます。逆の立場であれば、なんとかなるし大丈夫！ゆっくり休んで！と言えるのですが、、自分のこととなると迷惑をかけてしまっていると思ってしまう。

子育てと仕事、どちらかがうまくいっているときは、家の大変さを仕事で忘れてたり、仕事の大変さが娘との関わりで気持ちが和らいだりするのですが、どちらもしんどい場合は休む間がない、というのが辛いところだなあと感じることもありました。

・保育と子育てはどのように違うか？

出産前は保育士として学んだことを、保護者に伝えなければ、共有したい、という思いが強かったように思います。例えば朝ご飯はしっかり食べる。テレビの時間について、寝る時間について、おやつについて、だったり、学んだことを伝えたい、こうできたらいいのにな、とっていたと思います。

実際、子育てをして、最初の頃は頑張っていたのですが、難しいな、と感じたのが正直なところでした。朝ごはんは米を、と準備していましたが食べたくないという娘とやりとりをして、気分を変えてようやく食べるより、食べたーい！と菓子パンを自分から機嫌よく食べてくれる方がどれほどラクか、、、テレビも時間を決めて見せていて、その間に自分の準備や朝ごはんの片付けをして終わったらテレビを消して一緒に遊ぶようにしていたのですが、テレビの時間を延ばすことで、自分が一人でゆっくりコーヒーが飲める一瞬ができたときのほっとした気持ちと罪悪感は今でもまだあります。

あまり機嫌良く過ごす子どもではなかったのも、産休育休中に何度もこれまで関わってきた保護者の顔が頭に浮かび、みんなこんな大変な中で保育園に来ていたんだなあと、思いを馳せることがありました。もちろん、専門職として、伝えるべきことはあるのですが、まずは家庭の状況や保護者の思いを聞いて、一緒に考えていけたらいいのかな、と思っています。もちろん、出産前もそうは思っていたのですが、子育てを経験する中で想像以上の大変さと子育てへの不安感を経験したことは私の力になっています。

一方で子どもにとって、と考えたとき、子どもを24時間でまるごと共有することの難しさも感じています。ネットではいろんな情報が見られるし、保育園でパッと見たお友達の姿と比べて、できる-できないで判断してしまったり、家と園でのしんどさに違いがあった時に、家庭や仕事のしんどさを抱え、手一杯の保護者とどう一緒に手を繋いでいけるか、というところでは試行錯誤をすることもあります。私自身、娘の園でかみつきの続いたときに、かみつくのは自分の責任と感じてしまい辛い思いを引きずってしまったことがあります。保育園の実情や子どもの発達をわかっているのに、子どもに十分に関わっていない罪悪感からそう思うので、園での生活を経験していない保護者の不安はより大きいだろうなと思います。

・コロナ禍での保育と子育ての実際

2020年の春、先が見えず、自粛が始まってとても不安な思いで預けていたときに、クラスで登園したのが我が子だけという日があったことが忘れられません。仕事のために、我が子にリスクを負わせているのではと、今でも思います。

保育士の仕事はとてもやりがいのあるものですし、ようやくそのおもしろさを感じたり子どもの気持ちに寄り添うということの意味を感じつつあるというところですが、どうしても密を避けられない低い配置基準や、かかわりに不安はとても大きいです。

コロナ禍の自粛期間中に半数の子になったとき、それぞれの遊びが保障もでき、何かあったときにすぐに対応できる。部屋もゆったりと使え、狭さを感じませんでした。子どもも大人も大きな声を出さなくても意思の疎通ができ、本来の保育のあるべき姿だと感じました。

刻一刻と変わっていく対応、またできるできないの判断も園任せというところで、常に保育の内容というより、大枠を決定していくところにとっても時間がさかれています。計画したことや今までしてきたことができずに落ち込む時期もあったのですが、気持ちを切り替え、どうすれば安全にできるか、今の子どもにとってよりよい保育内容はなにかと考えることを大事にしています。

また、保護者になってわかったことは保護者同士のつながりを作るのは思ったより難しいなということです。仲良くなると、迎えにいったときの娘の様子を教えてくれたり、休みの日に遊ぶことを楽しみにできたりするのですが、元々あまり社交的ではないので、送迎の時間に挨拶くらいはしますが、それ以上になるには時間と余裕がないと難しいなと思います。（1分でも早く帰って、と思っていたので、）保護者の集う行事ができず、またおしゃべりもあまりよくないとされている今、保護者がつながり、同じ立場で話ができる機会の大切さを痛感しています。

保育士として働き続けていきたい、と思う一方で出産前はできていた仕事が時間的にも体力的にも難しくなったり、経験年数に合わせて重くなっていく責任の部分で難しさも感じていますし、それが我が子と十分にかかわれていない、育児がしんどいと感じる悪循環になってしまっていないか、と思うことがあります。保育士に限らず、どの人もいきいき働き続け、子育ても楽しめる余裕が必要では、と思っています。